

日本多施設共同コーホート（J-MICC）研究  
平成20年度 第1回追跡調査ワーキンググループ 議事録

日時 平成20年10月10日 13:30～16:45

会場 名古屋大学医学部附属病院 外来診療棟4階 大会議室

出席者 三上 春夫、鈴木 勇史、鈴木 貞夫、喜多 義邦、Choudhury Turin Tanvir、三谷 智子、尾崎 悦子、上村 浩一、古野 純典、田中恵太郎、嶽崎 俊郎、平佐田和代、中村 昭彦（以上、コーホート研究実施グループ）、丸山 英二（社会的諸問題検討委員会：オブザーバー）、浜島 信之、若井 建志、内藤真理子、森田 えみ、岡田 理恵子、川合 紗世、富田耕太郎（以上、中央事務局）

1. 社会的諸問題検討委員会から丸山英二先生が、オブザーバーとして参加することが承認された。

2. 中央事務局より、理化学研究所にて遺伝子型決定を行う横断研究の対象者について、運営委員会での決定にもとづき、10月末日までに調査票および検診データ（MECASで出力したもの）を提出するよう依頼がなされた。

3. 中央事務局より、死亡小票の閲覧について、現在、総務省で本審査中であるが、まだ許可は下りていないことが報告された。今回、閲覧申請をしたコーホート研究実施グループでは、許可後には死亡小票を閲覧し、ベースライン調査開始から2006年末までの「死亡一覧表」（紙ベースおよびExcelデータ）を作成、中央事務局に提出することとした。

4. 今後の死亡小票閲覧申請について、全コーホート研究実施グループが揃って申請可能になるまでは、1年ごとに実施することとした。2006年末までの閲覧申請の次については、2006年末までの申請が認められた後にすみやかに厚生労働省担当者との折衝を開始し、来年度初めに2007年分閲覧の本申請を目指すこととした。そのため、少なくとも来年度の早い時期までに、各コーホート研究実施グループで2007年分の死亡者を同定することとした。

5. 調査対象地域からの転出および職権消除については、当面、死亡小票閲覧後に「死亡一覧表」を提出するのと同時に、「転出・職権消除一覧表」（紙ベースおよびExcelデータ）を中央事務局に提出することとした。なお転居（調査対象地域内の異動）、改姓などについても追跡調査継続のため、各コーホート研究実施グループで把握しておくこととした。

6. がん罹患については、当初の予定通り、2009年を最初に毎年、4月までに4年前の1～12月分のデータを中央事務局に提出することを確認した。提出するデータは「がん罹患登録票」（紙ベース、紙ベースが煩雑な場合は電子データ）であり、運営委員会での議論をふまえ、進展度、TNM分類はclinicalとpathologicalに分けて記載を依

頼している。「がん罹患登録票」にあるTNM分類は研究上必須ではないが、可能な範囲で情報を収集することとした。

7. 中央事務局より、研究協力者からの同意撤回について、データまたは生体試料がすでに中央事務局に提出されている場合には、コーホート研究実施グループが、J-MICC研究の同意様式3（同意取得手順書）を用い、データの削除および生体試料の廃棄を中央事務局に申請することの確認がなされた。研究参加者が対象者の条件を満たさないことが判明した場合にも、データまたは生体試料がすでに中央事務局に提出されている場合には、同意撤回に準じて中央事務局に連絡することとした。

8. 研究協力者からの同意撤回について、正式の同意取り消し請求書（J-MICC研究の同意様式2 [同意取得手順書]）の提出がない場合にも、研究協力者の本人確認および同意撤回の意思の確認ができる場合には、同意撤回として認め、同意取り消し請求書の提出があった場合に準じて処理することとした。

9. 各コーホート研究実施グループより、死亡者、転出・転居者、がん罹患者、がん以外の疾病の罹患の把握状況など、追跡調査の進捗状況および問題点について報告された。

報告に関連した議論の中で、がん罹患の追跡調査について、追跡調査手順書よりも踏み込んだ基準を設定すべきとの意見があり、今後検討することとした。また地域がん登録との照合による、がん罹患者の同定は可能な限り、毎年、過去の年次分も含めて実施することとした（地域がん登録が遅れて症例を把握することがあるため）。